

バジヤドリード大学  
交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部

国際言語文化学科 4年 ヨーロッパ文化コース

私は、2018年9月から2019年2月までの半年間、スペインのカスティーリャ・イ・レオン自治州にあるバジャドリード大学セゴビアキャンパスで、交換留学生として生活した。この半年間で経験したことを、学校生活と私生活の2つにわけて報告させていただきたい。

その前に、私が半年間生活したセゴビアという街について簡単に紹介する。セゴビアは、スペインのほぼ中心に位置する首都のマドリードから北西へ90kmほど（電車で約30分）の場所にある人口5万人ほどの比較的小さな街である。街の中心には、セゴビア旧市街とこの街のシンボルともいえる大きな水道橋があり、共に世界遺産に登録されている。そのため、この街の人口は少ないものの、マドリードから近い観光名所ということもあり、中心部は常に多くの観光客でにぎわっていた。気候は、私が滞在していた秋から冬にかけてのものに関していうと、スペインの他の都市と比較しても寒く、去年は10月に降雪があった。その後も、最低気温が氷点下となる日々が帰国日まで続いたため、セゴビアへ秋から留学を考えている方々には防寒を心がけることをおすすめする。

ここから留學生活の報告に移る。まずは、学校生活に関する報告をさせていただきたい。私が交換留学生として通った「バジャドリード大学」はスペイン国内に4つのキャンパスを有する公立大学で、県大からの半年間の交換留学生は「セゴビアキャンパス」への留学となる。セゴビアキャンパスで学べる学問の分野は主に8つに大別さ

れており、留学生はすべての学部の授業から自分のとりたい授業を履修してよいとされていた。私は当時、大学卒業後は海外旅行を扱う旅行会社に就職したいと考えていたこともあり、最も関心があった「Turismo（観光）」という学部の授業を2つ履修した。一つが「Historia del Turismo(観光の歴史)」、もう一つが「Geografia Turistica(観光地理)」である。両授業ともにネイティブの学生向けに全スペイン語で行われ、また一回90分の授業が各々週2回ずつあるため、1週間でかなりの量の授業内容をこなす必要があり、留学生の私にとってはたった2つの授業でも周りのネイティブたちと同じペースについていくことは決して易しいものではなかった。課題も与えられ、両授業とも中間課題としてプレゼンテーション、期末課題として論述テストがあり、なかなか充実した内容の授業課程であった。授業のスタイルは基本的にパワーポイントを用いた講義形式であるが、授業内に複数の生徒が積極的に発言や質問をする光景が印象的だった。留学生の私にとっては、予習をしても毎回の授業において理解度が60パーセントほどで、授業内で発言をすることは難しく、自らの力でそれ以上理解度を100パーセントに近づけることは困難だった。しかし、両授業の先生、生徒ともに留学生の私に対してとても良心的であった。学生に授業内で理解できなかったところを質問すれば、自らのノートのコピーをくれたり、また彼らから気にかけて「今のところわかった？」と聞いてくれたりなどして非常に協力的な姿勢で接してくれ、授業の理解度の向上に貢献してくれた。先生も、授業内であまり理解が追い付かずに

発言がない私のことを配慮して、時々授業の中で日本に関するトピックを話題にして私に発言の機会を与えてくださるなど、周りに比べハンディキャップがあるにもかかわらず周りと同様に扱ってくださっていることがよく感じられ、心地よく勉強ができた。

次に私生活についての報告をさせていただきたい。留学生活で私が一番心がけていたことが「ネイティブの友達をつくる」ことである。他国からきた留学生とは英語を交えながら話すことが多く、また彼らのスペイン語はどうしても誤りや彼らの国の言語からくるアクセントが目立った。質の高いスペイン語を上達させるためには彼らの輪から離れてネイティブの中へ入っていくことが効果的であると考え、私は放課後や授業のない日は、一人でバル（スペイン人が多く利用する飲食店）へ出かけてみたり、「インテルカンビオ」という日本語を学びたいスペイン人が集まる会に参加してみたりなど、現地の人たちとの交流の機会を積極的にみつけていった。その結果、多くのネイティブの友達ができ、日常会話のレベルを飛躍的に向上させることができた。

また、私は旅行が趣味であり、授業がない日はセゴビアの外へ出かけていることが多かった。前述したようにセゴビアは首都のマドリードから近く、マドリードまで出ればそこからスペイン国内の様々な都市への交通網が張られている。公共交通機関の運賃は日本に比べて安く、セゴビアからマドリード間を片道4ユーロで結ぶバスがあったため、私はよくそのバスでマドリードへ出ては様々な都市へ一人で旅行に出かけて

いた。留学生活が終わるころにはスペイン国内の大きな都市はすべて、海外旅行も7か国を訪れることができ、すべてがとても貴重な経験となった。

最後になるが、留学生活を振り返ってみて、今回の留学は想像の何倍も実り多いものとなった。言語習得が最大の目的であったが、その他にも親や友人などの頼れる存在がいない中で自ら考えて行動する力や、様々な国の人々との交流から得られた協調性、積極性などが培われた。この経験はその後の自分に大きな自信をもたせ、また就職活動でも強みとなった。改めてこうした貴重な機会を与えてくださった県立大学、両親、その他の支えてくださった方々には心から感謝申し上げたい。この経験を、今後の人生に活かし、社会に貢献出来るよう努めたい。